

ないままに、貴重な文化遺産が放置され、破壊の危険にさらされていると云っても過言ではありません。それには、なんといっても、文化財保護の担当機関である北海道教育委員会の文化財保護行政の確立を図らなければならない事であり、でき

れば、各地方教育局に数人の専門の文化財調査員を配置して、調査活動の専念させるような体制を作ることが望ましいと考えます。他に正業をもつ者の片手間では本当の保護調査はできないのです。

(帯広柏葉高校教諭)

# 浦幌町における蝶類の出現期

## ——特にシロチョウ科について—— 円子紳一

本館報第7号で浦幌町における蝶類の出現期について、数回に分けて記すことにしたが、今回はシロチョウ科 (*Pteridae*) について考えてみたい。(円子、1976)

北海道で発見されているシロチョウ科は全部で10種類であるが、そのうち函館付近で1959年と1961年に採取された数頭のキチョウは、偶産蝶と考えられているし(白水、1971)、チョウセンシロチョウは1958年(留萌)(白水、1971)と1975年(留萌)(北海道新聞、1975)の2度採取されただけの迷蝶であり、現実に土着しているものは8種類である。

浦幌町においては、別図1のとおり8種類全部が確認されている。ただ、ヒメシロチョウとエゾヒメシロチョウ、スジグロシロチョウとエゾスジグロシロチョウは卵から成虫にいたる全ステージが極めて類似しているので、その分類は難しくヒメシロチョウ、スジグロシロチョウは個体数が少ないようなので、更に綿密な調査を必要とすると思われる。

### エゾヒメシロチョウ

*Leptidea mosei* Fenton

北海道特産種で道内各地に分布している。通常年2回の発生で、春型(第1化)は5~6月、夏型(第2化)は7~8月である。浦幌町において最も良く見かけるのは5月中旬から6月中旬、7月下旬から8月中旬であるが、早いものは4月28日(1974)、29日(1972)の記録がある。

道南では、年3化が普通とされているし、帯広地域では2化と3化の混合と言われているので、浦幌町において出現初期が割合早いことからも一部3化の可能性がありそうである。それには9月に入ってからの確認が必要であろう。

### シマキチョウ

*Anthocaris scolymus* Butler

年1回の発生、東京以南では3月下旬から発生するが、北海道では5~6月である。浦幌町においては5月下旬~6月下旬までの1ヶ月間しかその姿を現わさない。また、本種の発生期は各地のサクラの開花期と同時期であることから、サクラ

別図1 シロチョウ科の出現期

種類	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	越冬態
ヒメシロチョウ			---	---	---					蛹
エゾヒメシロチョウ		---			---	---				蛹
ツマキチョウ			---							蛹
モンキチョウ		---				---				幼虫
モンシロチョウ		---	---	---	---					蛹
スジグロシロチョウ			---	---	---					蛹
エゾスジグロシロチョウ			---	---	---					蛹
エゾシロチョウ				---	---	---				三齢幼虫

注1 円子(1976b)と多少異なるのは、円子(1976a)の記録を含めたためである。

2 点線部分は、松本(1975)による

の開花期が本種採取の指標となる。

### モンキチョウ

*Colias erate poliographus* Motshulsky

本種は、日本では最も普遍的に分布している種の一つである。道内の暖地では3月始めに現われる。浦幌町では、普通5月下旬から10月中旬に出現在するが、早いものでは4月22日(1973)の記録がある。又、遅い記録としては11月3日(1972)、4日(1973)、7日(1971)となっており、霜が降りた後でもかなりの数が生き残っていることが度々ある。

北海道での発生回数は3回程度とされているが、本町においては暖地並の4~5回の発生も考えられる。

### モンシロチョウ

*Pieris rapae crucivora* Boisduval

前記モンキチョウと同様に全国的な普通種。シロチョウ科の中で春一番に姿を現わすのはこのモンシロチョウで、4月中・下旬には市街地でも見受けられる。

東京近辺では3月10日頃から11月半ばまでの8ヶ月位で5回発生が普通とされているから、単純計算でも約1ヶ月半で一世代の交替が行われていることになる。これを寒冷地である浦幌に直ちに結び付ける事はできないかも知れないが、少なくとも3化から4化の可能性がある。

### エゾスジグロチョウ

*Pieris napi nesis* Fruhstorfer

本種の出現期を5月からとしているのがほとんどであるが、浦幌では4月下旬にはその姿を現わ

別図2 シロチョウ科の浦幌町における初見日

種名	年	1971	1972	1973	1974	1975	1976
エゾヒメシロチョウ	5. 16	4. 29	5. 10	4. 28		5. 15	
ツマキチョウ	5. 30		5. 26				
モンキチョウ	5. 20	5. 23	4. 22			5. 9	
モンシロチョウ	4. 16	4. 14		4. 25		4. 20	
エゾスジグロチョウ	5. 5	4. 29	4. 22	4. 26		4. 21	
エゾシロチョウ		6. 20	7. 8			7. 4	

注：空欄は採取記録なし

表紙写真：旅来チャシコッ 中川郡豊頃町大字旅来字旅来南46線325—5に所在する。チャシは標高約40mの高所に位置し、眼下に十勝川を臨む。対岸には、十勝太D.チャシを始めいくつかのチャシが対峙し、眺望も極めて良い。構造は半円形の壕及び外壕からなり、近接して円形に壕をもつチャシがある。寛政年間、日高アイヌがこのチャシを攻撃したが果さなかったとの伝承も残っている。

(後藤秀彦)

している。出現期間はモンシロチョウとはほぼ同じである。発生回数は道西南部並の3回と考えられる

### エゾシロチョウ

*Aporia crategi adherbal* Fruhstorfer

北海道特産種。年1回の発生、6月中旬から7月中旬が主な発生期である。

1976年7月4日、帶富で本種の羽化を観察することができた。サンザシの頂上にある2本の枝に39個の蛹群があったもので、採取時には20が既に羽化を終了していた。その後2日の間に次々と羽化し、最終的に4個が羽化せずに残った。羽化しなかったもののうち、1個は羽化途中で死んでしまい、後の3個は寄生虫(ハチ類と思われる)が脱出した様な2~3mmの穴があった。

今年の様に異常寒波が続いた後では、サクラの開花もさることながら蝶の出現も大いに心配である。特に雪が少なく乾燥気味であったことは蛹の生体に影響があるのではないかと懸念される。

(浦幌町農業協同組合農産課)

### 引用文献

白水 隆(1971)原色図鑑日本の蝶

北海道新聞(1975)新聞報道による

松本尚志(1975)浦幌町に於ける蝶類の分布、浦

幌町郷土博物館報告6

円子紳一(1976a)浦幌町郷土博物館所蔵の阿部

宏氏の蝶標本、浦幌町郷土博物館報告7

——(1976b)浦幌町における蝶類の出現期、

浦幌町郷土博物館報告7